



## 大学後援会の活動を紹介します



大学後援会の活動の主たるものは総会・地区後援会開催のほか、各種学生活動や奨学基金への助成になります。例年5月には大学キャンパスにおいて後援会総会を、8～9月にかけては東北5県において地区後援会を開催しております。

お預かりした会費は、課外活動支援、就職指導等支援、新入生歓迎行事や大学祭への援助、自主活動プロジェクト支援、宮城学院奨学基金、国際交流事業、出版助成、卒業記念品などに使わせていただいております。また、保護者の皆さまとの連携を密にするために、このような「会報」を発行し、各種情報の発信に努めております。

今後とも、大学後援会の活動に対しご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 各種助成 学位記授与式



▲卒業記念品

## 各種助成 新入生歓迎行事



## 各種助成 サークル活動



## 各種助成 自主活動



▲2020年度大原小学校ボランティア



▲2019年度食楽プロジェクト



▲2021年度Food and Smile!

## 大学施設設備への助成



▲ブレイクハウス整備



## 新型コロナ対策への助成



▲自動検温システム



宮城学院女子大学後援会事務局（大学事務部庶務課内）

〒981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1

TEL 022-279-4698 FAX 022-279-7566 E-mail syomu@mgu.ac.jp.



## 宮城学院女子大学後援会会報

MIYAGI GAKUIN SUPPORTERS REPORT 2021

号外

2021年度新入学生保護者の皆様



## 保護者の皆様へ

後援会会長

高橋 博

後援会会報の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。はじめに、ご息女が宮城学院女子大学へご入学された保護者の皆様、誠にありがとうございます。

保護者の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染拡大による自粛期間が長引く中、ご苦労はいかほどかと拝察しております。大学におきましては、入学式等新学期関連行事が延期・内容変更等となり、授業も遠隔授業が主体になる等これまでにない対応を余儀なくされております。

また、後援会におきましても非常に残念ですが、活動が大きく制限されております。例年であれば4月の入学式後に後援会の入会式が開催され、5月の後援会総会で前年度の事業報告並びに収支決算報告及び今年度の事業計画並びに収支予算を承認いただき、8月下旬から地区後援会開催等諸活動を展開しております。

後援会は大学と家庭の連絡を密にし、宮城学院女子大学大学院、女子大学発展の為に後援することを目的としております。

本会は上記の目的を達成するため、保護者の皆様からご協力いただきました貴重な財源を基に学生と大学に対して種々の助成を行っております。

今年度は前年度に引き続きコロナ禍の影響により大学後援会総会の開催を中止させていただくこととなりました。

2年連続での中止となり会員の皆様にはご意見等を直接頂戴する貴重な機会を提供することが出来ません。誠に申し訳ありませんが、何卒ご理解賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

後援会は大学と、後援会として如何に事業並びに予算を有効且つ公平・公正に執行するかという観点で協議を重ねております。コロナ禍の終息を見通せず前例がないことばかりで、判断や舵取りが非常に難しい状況にあります。

後援会として、学生がより充実した学生生活をおくることで貴重な4年間を過ごせるように、且つ大学が益々発展することを念頭に活動してまいりますので、保護者の皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

結びに、コロナ禍が一刻も早く終息することを願いますとともに、保護者の皆様の益々のご健勝をご祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。



## パンデミック時代の大学

学長

末光 眞希

新型コロナウイルス禍が始まって一年が経ちました。今年度こそは桜咲き誇る中で新入生をお迎えできると期待しておりましたが、年度末に宮城県の感染者数が急増し、遠隔授業でのスタートとなってしまいました。変異株の台頭もあり、今後の見通しも予断を許しません。この一年間の我慢は何だったのかとの思いを抱かずにおれない新学期です。

新型コロナウイルス・パンデミックが人類にもたらしたものについては、様々な議論がなされています。生物学者は生物進化においてウイルスが果たした役割を説き、歴史学者はパンデミックが歴史を動かしてきたことを指摘し、社会学者はこれを社会システムの変革の契機と捉えようと希望を語ります。おそらく正しい認識でありましょう。しかしいまだ新型コロナウイルス渦中にあえぐ私たちは、そのように新型コロナパンデミックを理性的・肯定的に理解する余裕を持ちません。ワクチンが人口の75%に行き渡って集団免疫を確立するのに、今の日本のペースだと4年弱かかるという計算があるそうです。実際にはワクチン接種も加速され、もう少し早く収束

すると思いますが、しかし当面私たちがウイルスを徹底的に遠ざけるウイズアウトコロナ戦略を続けねばならないことだけは確かなようです。

この長期戦を戦い続けるには、我慢だけではもちません。戦い続ける気力を維持するためにも、私たちは人と上手に「会う」必要があります。当面はオンラインが中心になりましょう。しかし早急に私たちは安全に人と会う方法を確立しなければなりません。コロナは私たちから「身体性」という、もっとも大切なものを奪い取りました。私たちはマスクによって半顔を隠した「匿名的」な在り方に、いつしか居心地の良さを覚えるようになってしまいました。マスク無しの顔を見ると泣きだす赤ちゃんが増えているそうです。オンラインを支えるデジタル技術が、SNSを介して人々の分断を加速するという研究結果もあるようです。急速に「身体性」を失いつつある人類。これはまさに人類の危機といって過言ではありません。

大学は、中世ヨーロッパで学問を志して遍歴する若者たちが都市で出会い、協同組合を作って私講師と契約したところから始まりました。大学の原点には他者との「出会い」があったのです。偶然性を排除するデジタル技術だけでは「出会い」は起こりません。本学の建学の精神は、この「出会い」は神の導きによって起こると伝えます。キリスト教主義の伝統に立つ本学は、可能な限り対面授業を取り戻し、今後とも出会いの場を学生の皆様に提供すべく努力を続けてまいりたいと思います。

皆様への神の守りをお祈り申し上げます。



## 会の運営と活動について



宮城学院女子大学後援会(以下、「本会」という)は、1958(昭和33)年7月7日に本会会則を定め、設立から63年目を迎えております。

本会会則第2条において、本会を設置した目的を「大学と家庭の連絡を密にし、宮城学院女子大学大学院、女子大学発展の為に後援すること」としております。また、本会の主な事業として、「大学と家庭との連携を図る事業(総会・地区後援会等)の開催」、「学生の課外活動および教学に必要な設備その他諸費の補助」、「学生行事(大学祭等)およびに大学行事(学位記授与式等)への援助」、「会報の発行」、「奨学金および国際交流事業への支援」と定め、ご息女の学生生活を見守る活動を行っております。

本会の運営は、会長をはじめに副会長、理事、監事を役員としておき、学校法人より理事長、学院長、学長、事務局長を顧問として、本会会員の皆様とともにまいります。

通常ですと、本会の活動は4月の入学式終了後に本会の入会式、5月下旬には総会、8月下旬から9月上旬にかけて宮城県を除く、東北5県での地区後援会を開催し、会員の皆様と交流を深める機会を設けてまいりました。また、ご息女の学生生活や就職活動などのキャリア形成に対する助成を行い、支援してまいりました。

助成の内容を少し具体的に申しますと、学生が大学生生活を自主的かつ有意義な取り組みができるようサークル活動、大学祭、新入生歓迎会などの学生生活支援への助成、学生の教育環境や学生生活環境に関わる施設設備整備への助成、就職に関わる講座や就職のためのセミナー等実施への助成、入学後に家計急変などの経済的理由で学業の継続が困難な状態に陥った学生を救済するための奨学金とするための基金への助成、その他、修学支援を目的とする大学独自の奨学金資金や国際交流事業への助成を行っております。

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、本来の活動を十分に行うことができませんでした。現在のところ、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等が発令されており、今年度も例年通りの「総会」の開催は断念せざるを得ない状況となっております。本会においては、学生および保護者等の皆様の安全を最優先に考え、決断いたしましたことにつきましてご理解とご協力を賜れば、幸甚に存じます。

新型コロナウイルス感染状況が収束した際には、本学のキャンパスにお越しいただけるよう企画を考えたいと思っております。

本会では、学生の学業や学生生活がより充実したものになるよう、様々な活動を行っておりますので、本会の活動にご理解いただき、今後ともご協力のほど、よろしくお願いたします。

最後になりましたが、ご息女はじめ、会員の皆様方のご健康とご繁栄を祈念申し上げます。

### (参考) 通常時(2019年度)の活動記録

#### 総会



▲総会



▲食品栄養学科による昼食提供



▲就職個別懇談



▲学科別クラス懇談



▲音楽科によるミニコンサート

#### 入会式



#### 地区後援会



## 有意義な学生生活のために

### 学生生活センター

学生生活センターは、学生生活の充実と向上を図るため設置されており、学生の課外活動・福利厚生に関することや、学生の活動に関する情報発信、その他学生生活にかかわる事項に対処しております。

学生が自主的かつ積極的に取り組む、サークル活動やボランティア活動、大学祭や学友会活動などに取り組む学生をサポートし、活動費の助成を行っております。コロナ禍の渦中ではありますが、学生のみなさんの安心・安全を最優先に、今できることを支援しております。

生活面や経済面でのサポートとしては、奨学金や学生寮(さくら寮)も整備しております。各種奨学金の紹介や本学独自の奨学金については、本学ホームページや学生ポータルシステム(UNIPA)でお知らせしています。コロナ禍における大学独自の奨学金や、食費負担の軽減のためのサポートにも取り組んでいます。

さまざまな活動にチャレンジをしていく中では、問題に突き当たることがあります。本学の保健センター、学生相談室および特別支援室は、身体的・精神的な心配事や困りごとへのサポートを提供しています。

このような学生生活センターの活動を通じて学生の活動を全面的にサポートしてまいりますので、みなさまのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



▲大学祭の様子(2019年度)



## 「誰一人取り残さない」就職支援

### キャリア支援センター

2021年3月、この春も卒業生を無事送り出すことができました(進路状況は現在集計中で、7月中にホームページで公開予定です)。そして同じ3月、現4年生・大学院2年生(当時は3年生・大学院1年生)対象の本学主催「オンライン企業研究会」を実施しました。コロナ前に対面で2日間開催していた時と同様、OGを採用してくださっている約90社の企業・団体にご参加いただきました。1日5~6社、20日間にわたりオンラインでの開催でした。ご協力くださった企業・団体の皆様には、本学学生が有意義な就職活動ができるよう、対面と変わらず丁寧にご説明いただいただけでなく、対面時には難しかったOGの同席など、オンラインならではの工夫もいただき、大変充実した機会となりました。4年生・大学院2年生は、まさか自分達の就職活動が本格化する時まで、新型コロナウイルスの影響が続くとは思っていなかったことと思いますが、落ち着いてやるべきことを一つ一つ丁寧にやれば自分が希望する進路は得られると信じ、一生懸命就職活動に取り組んでいます。

4月からは、3年生・大学院1年生対象の「就職ガイダンス」が始まりました。コロナ対策で今年度もオンデマンド型の動画配信形式です。これから12月まで約9か月間、先輩達の動向を参考にコロナ禍の就職活動をどのように行っていけばよいのか、2週間に1本、計18本の動画を配信します。教室で直接様子を見ながらお話できないのが残念ですが、復習したい時は何度でも見返せますので、利点を有効活用していただきたいです。

全学生向けの「キャリアアップセミナー」は、5月からスタートです。多様な分野で活躍する女性のお話を聴く企画で、今年度は児童文学作家や照明デザイナー、旅館の女将、警察官の方など、昨年度とは異なる職業の皆様にご協力をいただきます。前期は動画配信形式で行いますが、後期は双方向ライブ配信を計画しています。本学では今年度もこうして、実社会とつながりを得て学びの場を広げ、自らの人生を主体的に選択する力を身につけることができるよう、学生の皆さんを支援していきます。

最後になりますが、保護者の皆様向けには、毎年11月第一土曜日に「保護者のための就職支援セミナー」を開催し、昨今の就職活動事情と本学の就職支援に関する情報提供を行っております。大学後援会からの助成金をいただき運営させていただいております。昨年度はオンラインでの開催となりましたが、遠方にお住まいの保護者にも参加いただくことができ、新たな取組として好評でした。今年度の開催方法は現在検討中です。10月上旬頃、封書にてご案内申し上げますので、ぜひご参加ください。